

2025年度 千葉商科大学地域志向活動助成金 活動概要報告書

1. 活動名称：市川市の埋蔵文化財の有効活用の方法を探る

2. 団体名・代表者氏名：市川緑の市民フォーラム 事務局長 佐野郷美

3. 活動目的：

千葉商科大学と国府台公園内にある下総国府関連遺跡、あるいは外環道路建設時に発見された北下遺跡と雷下遺跡は、日本の宝であると同時に、市川市にとっても貴重な財産であるが、発掘調査後覆土して保存するだけでは、一般市民にとっては「遠い存在」となってしまう。

そこで、文化庁が全国の市町村に対して「文化財保存活用地域計画」策定を促しているこの時期に、他地域で貴重な遺跡群がどのように保存活用されているかについて研究し、市川市が今後文化庁に提出することになるであろう市川市の「文化財保存活用地域計画」に活かしてもらうことを目的として活動する。

4. 千葉商科大学の教官及び学生との具体的な連携内容：

(1)千葉商科大学人間社会学部 和田義人教授との連携

11月29日に千葉商科大学で実施したシンポジウム「遺跡・文化財の活用」市民の視点から－国府台とその周辺の旧石器時代から国府の時代まで－、及び2026年3月9日に市長・市教育長等に贈呈した「市民版文化財保存活用いちかわ計画」の内容に関わる、「市北西部の文化財を訪ねる自転車ツアー実験」、「地域文化財についての学生アンケートとの実施等で、大変お世話になりました。この場を借りて、御礼申し上げます。

(2)千葉商科大学学生との連携

上記の和田義人教授の協力とアドバイスで実施した“市北西部の文化財を訪ねる自転車ツアー実験”では、千葉商科大学人間社会学部人間社会学科3年生の水沼璃空さんと同じく3年生の鶴田柊翔さんが協力して下さり、さらに11月29日のシンポジウム「遺跡・文化財の活用」市民の視点から－国府台とその周辺の旧石器時代から国府の時代まで－と2月7日に学内で実施された活動報告会「第16回CUC地域連携フォーラム」では、お二人に登壇していただき、活動の感想と若い世代に今以上に文化財に関心を持ってもらうためにどんな工夫をしたらよいかなどについて自由に述べていただいた。

5. 活動の実績概要：

(1)本活動は、①文化財の多い市川市北西部について研究する、②他地域より多数存在する

文化財について、今よりも市民に関心を持ってもらえるようにするにはどうしたら良いのかについて研究する、③文化庁が全国の市町村に策定するよう求めている「文化財保存活用地域計画」の策定を市川市に促せるような活動とする、という3点に重点を置いた。そのため、本年度末には、この研究に基づいた市民版「文化財保存活用いちかわ計画」を制作し、市川市、市川市教育委員会に提案したいと考えた。

(2)上記(1)を実現するために、以下の5つ活動を進めた。

活動1：市内の文化財行政の現状の把握（2025年5月15日実施）

活動2：すでに「文化財保存活用計画」を策定している自治体の研究

活動3：全国の埋蔵文化財の保存活用に詳しい「文化財保存全国協議会」から学ぶ

活動4：若い世代に市内の文化財に関心を持ってもらうための研究

(1)学生アンケート「市川市の埋蔵文化財の有効活用の方法を探る」(2025年11月)

対象：千葉商科大人間社会学部人間社会学科2～4年生 135名

(2)実験：市川北西部“文化財 Watch 自転車ツアー”

スタート（CUC）→市立考古博物館→堀之内貝塚→雷下遺跡→道の駅いちかわ→北下遺跡→下総国分寺跡→下総国分尼寺跡→下総国府跡→ゴール（CUC）

活動5：市民の視点で考える市民版『文化財保存活用いちかわ計画』の完成を目指して、まとめ上げていく視点を、「Ⅰ. 海、川、陸が接する交通の拠点としての市川を柱に」、「Ⅱ. 遺跡・文化財を次世代へ継承するための活用計画を」、「Ⅲ. 市全体が歴史、文化のゾーンとして一体感のある活用計画を」、「Ⅳ. 自治体の枠を超え、周辺や区と共同で進める活動計画を」として検討を重ねた。

活動6：市川市（市川市長）、市川市教育委員会（市川市教育長）宛に「市川市内の遺跡の適切な保存と有効な活用を目指して、2026年3月9日に、市民版「文化財保存活用いちかわ計画」を提出した。

以上